

経営比較分析表（令和2年度決算）

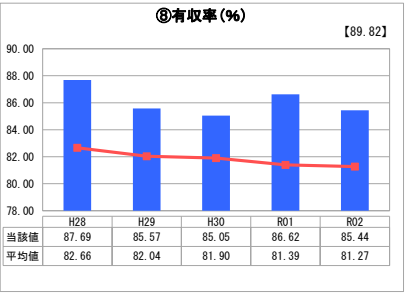
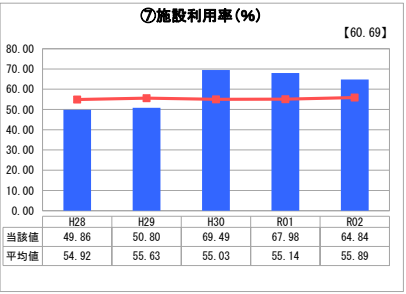
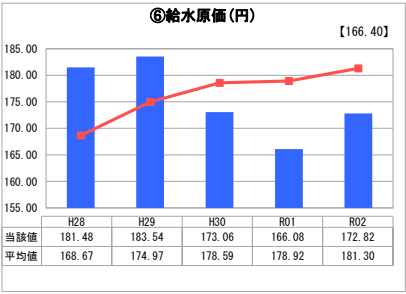
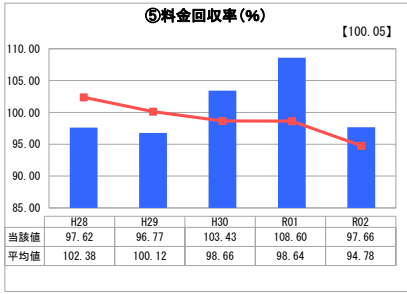
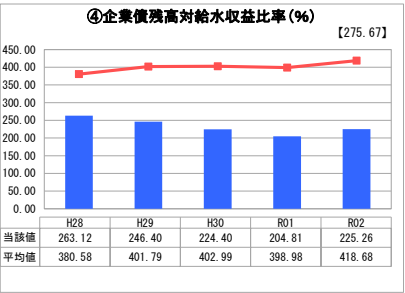
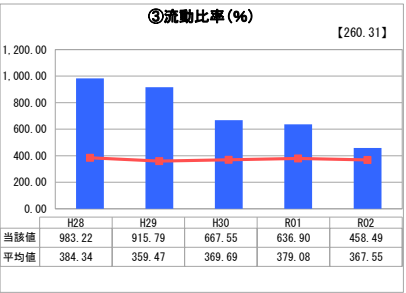
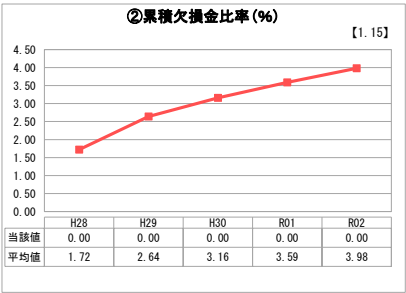
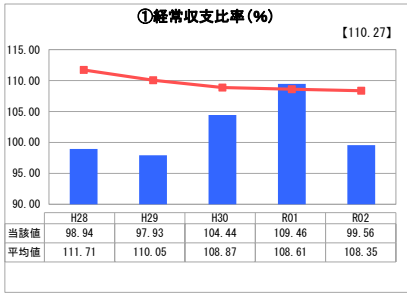
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	76.97	99.80	2,365	

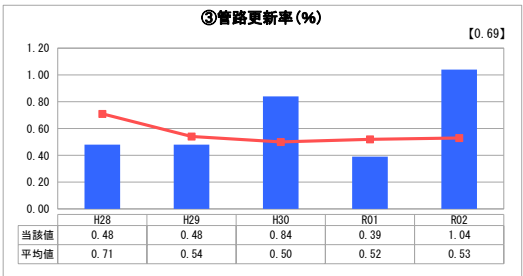
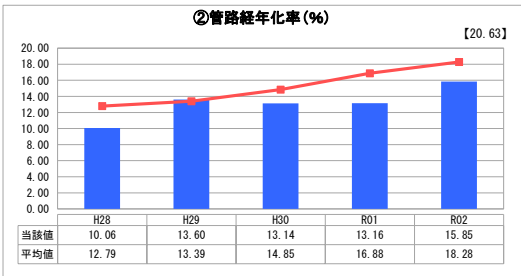
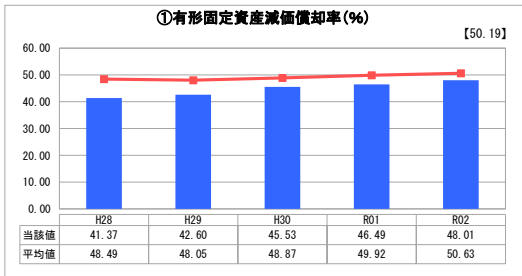
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,654	38.64	482.76
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,484	38.64	478.36

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について
- ①経常収支比率⑤料金回収率
経常収支比率と料金回収率は100%を下回っており、赤字が生じている。両比率が100%を下回った主な要因は、新型コロナウイルスの影響による大口の使用水量の減少や感染症に係る対策として水道基本料金を2か月分免除したことにより、給水収益が減少したためである。
- ③流動比率
100%を大きく上回っていることから、短期的な債務に対する支払能力はあると言えるが、建設改良工事費等の増加により、現金等の流動資産が減少しているため下傾向にある。
- ④企業債残高対給水収益比率
企業債未償還残が減少したが、給水収益も減少したことから昨年よりも上昇となったが、類似団体と比較すると下回っている。この比率からは、設備投資の財源として企業債に依存することなく、内部留保資金とのバランスがとれていると言える。
- ⑥給水原価
有収水量の減少により、前年度と比較すると上昇しているが、類似団体と比較すると下回っている。
- ⑦施設利用率
施設利用率は、使用水量の減少により一日平均配水量が減少したため、利用率が低下している。
- ⑧有収率
有収率は、減少傾向にあり、漏水等の無効水量を減らし、有収率をより上げていくことが重要と考える。今後も継続して老朽管の更新及び漏水調査を実施する必要がある。
2. 老朽化の状況について
- ①有形固定資産減価償却率
類似団体を下回っているが、緩やかに上昇している。今後も経年による施設全体の老朽化が進み、上昇する見込みである。
- ②管路経年化率③管路更新率
水道事業ビジョン及び基本計画に基づき、老朽管及び耐震化の更新を進めている。今年度は、前年度と比較し更新距離は減少しており、管路経年化率は増加している。今後も老朽化が進みつつあるため、計画に基づき、継続して更新していく。

全体総括

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、大口企業の使用水量の減少や感染症に係る対策として水道基本料金を免除したことにより、給水収益が減少し、経常収支比率は赤字となったが、料金回収率については給水原価が供給単価を上回ったことから、給水に係る費用が給水収益以外で賄われていると言える。経営の健全性・効率性については、資金残高が減少しているため、財政基盤の強化に向け、将来を考慮した料金体系のあり方や料金水準を検証する必要がある。今後大口の使用水量の動向を注視し、企業債の借入れ、適切な施設の維持管理、施設規模の見直し等を検討していく。

今後も、本町の水道事業ビジョンに掲げる基本理念である「より安全・安心で しあわせを守る みんなの水道水」を目標に、安全な水道水と安定供給の確保のため、より一層の経営基盤の強化を図っていく。